

# 公民館・学校・地域商社との協働による 地域運営の仕組みづくり

モデル公民館(H23～H25)

益田市真砂公民館

【取組の概要】 小中学校と地域が連携した「食育講座」、学校と地域団体との連携による「商品開発」など、公民館が核となって住民や学校、地域商社とをつなぎ、多くの住民が地域資源を生かした生産活動と加工品販売に意欲的に参画している。

## 1 本事業に取り組もうと思った理由

昭和30年代には2,000人もいた真砂人も今では411人、高齢化率48%となってしまった。

地域を元気にしたいという思いから学びの場の提供や多くの活動を行ってきたが、少子高齢化の波は地域の頑張り以上に早く強力に押し寄せてきた。

そのため、多くの問題・課題を抱えるようになりコミュニティの存続すら危ぶまれる状況になった。

このような地域にあって解決していくべき課題として、次の5つの項目に絞って取り組んでいくこととした。

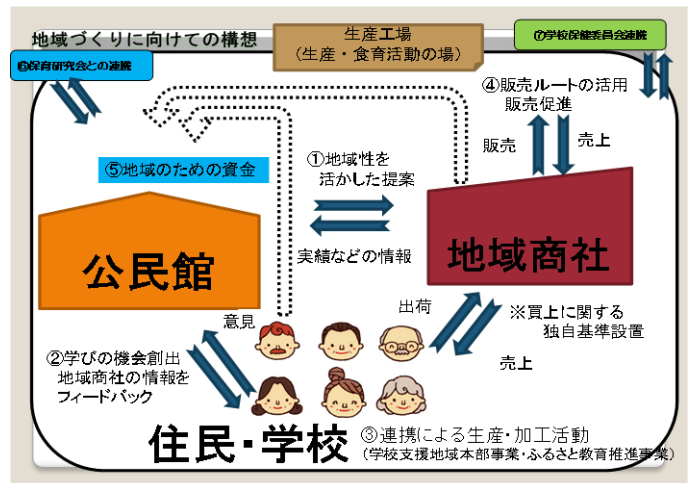
- (1) 元気な地域を作り上げるにはどうしたらいいか。
- (2) 従来の公民館活動を続けていくだけでいいのか。
- (3) 地域商社として地域貢献できる事はないか。
- (4) 学校との連携は十分か。
- (5) 耕作放棄地の進行に歯止めをかける方法はないか。

## 2 公民館としての仕掛け

地域活動に公民館をいかに活用するか、地域商社として地域貢献は何ができるかを「公民館・商社」で話し合いを進めた。

- (1) 公民館活動の中に地域商社を巻き込んだ地域づくりを進める。
- (2) 取り組みの中に将来を担う子どもたちと連携した活動を進める。
- (3) 益田市保育研究会との連携による給食食材提供を進める。
- (4) 生活基盤である農業を活動の基軸とした「食育」に取り組む。
- (5) 加工から販売を進めることで経済力の向上に取り組むと共に、関わる人たちの「生きがい作り」を目指す。

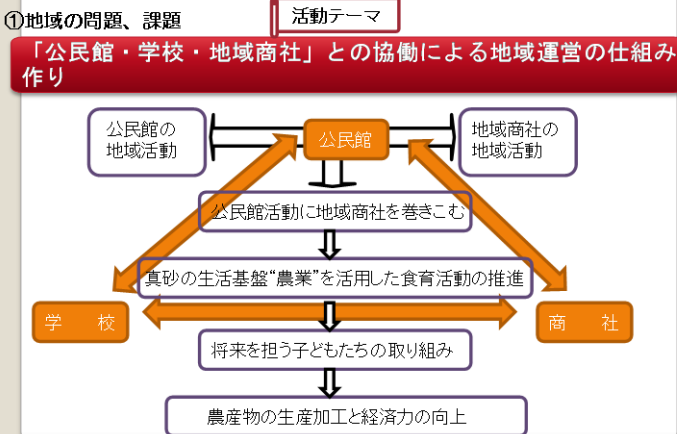
公民館・学校・地域商社がトライアングルを構成し、それぞれの特徴を活かしながら活動を進め、上記の5項目を進めていくことが必要と考え活動を進めた。



### 構想図説明

- ① 公民館・商社の情報交換、資源活用の提案
- ② 公民館による学びの提供、情報のフィードバック
- ③ 学校地域連携による特産物生産活動と学びの提供
- ④ 商社による情報提供と販売ルートの活用
- ⑤ 活動によって得た資金は将来の地域づくりの原資とする
- ⑥ 市内保育所の給食食材提供 (旬で安心安全な食材)
- ⑦ 学校と連携した食育活動と食育授業の推進

### 地域づくり構想



### 3 事業の成果(地域の変容・公民館の変容)

地域の抱える諸問題を解決するために本事業を公民館事業として実施する一方で、地域の主要事業として「公民館・学校・商社・地域団体」がそれぞれの特徴を活かしながら取り組んできた。

それぞれの成果として、

#### (1) 公民館の活動から

- ① 「子どもたちに安全な野菜を食べさせたい」という思いから安心安全な野菜作りが浸透してきた。
- ② 活動を続けることで、地域づくりに参画していなかった高齢者の顔を見られるようになった。
- ③ 生産から販売までを一貫することで「小さな経済力」の向上につながった。
- ④ 作ったものを食べてもらえる喜びは、高齢者・女性の生きがい作りになっている。



公民館研修会

#### (2) 学校の活動から

- ① 地域との交流により地域で活躍する大人の「生きざま」を学ぶ機会になっている。
- ② 子どもたちに食への強い関心、地域への愛着心が備わってきた。「ふるさと教育」推進の牽引力にもなっている。
- ③ 学校支援地域本部事業を柱とする益田市教育協働化推進事業の役割も担っている。

#### (3) 地域商社の活動から

- ① 児童生徒に商品開発のアドバイスをしたり、生産した商品の販売先の確保などをしたりすることで、子どもたちや地域住民の商品開発に対しての意欲が出てきた。
- ② 生産から販売を支援していくことで新たなビジネスチャンスが出てきた。
- ③ 地域住民の雇用にもつながっている。
- ④ 住民個々の経済力の向上につながっている。

#### (4) 地域団体の活動から

- ① 生産活動を進めていく中で、耕作放棄地の活用が図られた。

- ② 商社による販売支援によって、販売先の確保が可能となり、商品開発や生産増を目指した取り組みが行われている。



学校開発オカラコロッケ

### 4 モデル公民館として「地域力」を醸成するために大切にしてきたこと

- (1) 「とにかくやってみよう!」「やってみなくちゃ分からない。」の思いを共有しながら生産活動に挑戦した。
- (2) 型にこだわらない活動を進めた。地域で畑作に関わるのは女性であることから「ゆっくりとのんびりと」を掲げて活動してきた。
- (3) 地域間交流から地域づくりを進めてきた。
  - ① 保育所(園)への食材提供による子どもたちとの交流を目指した。
  - ② 児童生徒たちと地域住民が一緒に生産加工や販売活動を行うことで、子どもたちのふるさと教育の場と地域の人たちの生きがい作りになることを目指した。



保育所農園収穫

- (4) 住民個々の「経済力」の向上を目指した。

生産物・加工品を販売することで個々の収入源確保に取り組んだ。

- (5) 地域情報発信に努めてきた。

公式ホームページ・

公式 facebook の開設



真砂地区広報ポスター